

## 第4学年 算数科学習指導案

児童 1組(31名)、2組(31名)、3組(31名)  
指導者 1組 星 健 也  
2組 横 川 智 子  
3組 藤 井 美 香

1 単元名 「分けた大きさの表し方を考えよう (分数)」(東京書籍4年上P78~90)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領第4学年の内容A(5)「分数の意味とその表し方について理解できるようにする」に基づいて設定されたものである。

第3学年では正方形を等分した1こ分の大きさに着目しながら半分の広さを弁別する活動を、第4学年「小数」では単位量に満たないはしたの量を小数で表すことを学習している。

本単元では、任意の単位をつくれる分数を初めて導入する。小数では単位量を10等分したものを新たな単位として表したが、分数は単位量を任意に等分し、新たな任意の単位をつくれるというよさがある。小数・整数と関連付けながら分数の意味やそのよさを理解させていくことが大切となる。

(2) 児童観

事前に行ったレディネステストの内容及びその正答率は以下の通りである。

問 題 内 容	正答率
ア 正方形の色を塗った部分が半分の広さになっているかどうかを弁別する。(5つの図形のうち3つを選択して正解)	34%
イ 小数で表されたはしたの量を10等分されたテープ図に色をぬって表す。	87%

イから単位量を10等分したうちの1こ分が0.1であることはおおむね理解されていることがわかる。しかしアの結果をみると、図形を直感的にとらえてしまうため、正方形を2等分した場合の広さを半分と判断することはできても、任意に等分したものをもとにして半分の広さを判断することは難しいということがわかった。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、導入で具体的な数量である長さを扱う。その際、テープを使った作業的活動を行い、基準量を等分することを体感的に理解するとともに分数の意味理解を図っていく。また、10のます図を使って液量についても端数部分を分数で表せることを具体的に理解させていきたい。次に、真分数と仮分数、帯分数の意味理解を深めていく。そして、単位のつかない分数を数として意識させ、仮分数と帯分数の相互の関係や分数と小数の関係が理解できるようにしていく。そのためにも数直線を有効に活用し、分数の構成やその数量関係を確実に捉えられるようにしていきたい。

3 単元の目標

◎ 分数の意味とその表し方について理解するとともに、端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさなどを表すときに分数を適切に用いる能力を身に付ける。

< 関心・意欲・態度 > ・分数を用いると、端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさなどを表せるよさに気づき、進んで生活に生かそうとする。

< 数学的な考え方 > ・分数は単位量を何等分かした1こ分を単位として、その何こ分で表すことを筋道立てて説明できる。

< 表現・処理 > ・端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさなどを分数を用いて表すことができる。

< 知識・理解 > ・分数の意味や表し方を理解する。

4 単元の指導計画と指導の構想 (13 時間)

時	目標	学習活動	評価規準	○主な算数的活動<仮説1> ◇習熟<仮説2>
①はしたの大きさの表し方 (3時間)				
1 (1組本時)	[プロローグ] ・日常生活の中で等しい大きさに分ける場面を話題として取り上げ、話し合いを通して、等分したときの大きさなどについて興味・関心を高めるようにする。			○いろいろなものを等しい大きさに分けることについて話し合い、等分することの意味を確認する。
	○端数部分の大きさを、基準量を何等分かした大きさではかることで分数の意味を知り、分数を用いた表し方を理解する。	・1mのテープを3等分した1こ分の長さの表し方を考える。 ・その長さを1mの「三分の一」といい、「 $1/3m$ 」と書くことを理解する。	(関)1mのテープを3等分した1こ分の長さを、mを単位として表す方法を考えようとしている。 (知)1mを3等分した1こ分の長さを1mの「三分の一」といい、「 $1/3m$ 」と書くことを理解している。	○紙テープを使ってはしたの長さをメートル単位で表す方法を考える。 ◇定着問題を解く。
	○端数部分の大きさを表す分数は、等分してできた単位の大きさの何こ分で表せることを理解する。	・1mのテープを3等分した2こ分の長さの表し方を考える。 ・その長さを1mの「三分の二」といい、「 $2/3m$ 」と書くことを理解する。	(考) $2/3m$ は、1mを3等分した2こ分の長さであることを説明できる。	○はしたの長さを単位分数をもとにして分数で表す方法を考える。 ◇定着・適用問題を解く。
3	○液量について、端数部分の大きさを分数で表せることを理解する。 ○「分数」「分母」「分子」の用語の意味を理解する。	・1を5等分した2こ分のかさの表し方を考える。 ・1を4等分した1こ分、6等分した4こ分のかさの表し方を考える。 ・「分数」「分母」「分子」の意味を知る。	(表)1を等分し、それを何か集めた大きさを、分数を用いて表すことができる。 (知)分数、分母、分子の意味を理解している。	○液量のはしたの大きさを分数で表す方法を考える。 ◇定着・適用・発展問題を解く。
②分数の大きさの表し方 (7時間)				
1 2 3 (2組本時2/2)	○分数も数直線に表せることを理解するとともに、分数の構成や大小について理解する。 ○単位量の大きさも分数で表せることを知る。	・ $1/5m$ の2こ分、3こ分、4こ分の長さは何mか考える。 ・ $5/5m$ は1mと同じ大きさであることを理解する。 ・ $4/5m$ と $3/5m$ の長さを比べる。	(表)分数を用いて表した量を数直線上に表したり、表された量の大きさをとらえたりすることができる。 (知) $5/5$ は1であることを理解している。	○単位分数をもとにして、 $1/5m$ の□こ分の長さを数直線に表す。 ◇定着・適用問題を解く。
	○「帯分数」の意味を理解し、単位量をこえる大きさを仮分数や帯分数で表すことができる。	・ $1/5m$ の6こ分、7こ分、…の長さは何mか考える。 ・「真分数」「仮分数」の意味を知る。 ・「帯分数」の意味を知る。 ・真分数、仮分数、帯分数を弁別する。	(考)整数と同じように、単位の何こ分として仮分数をとらえている。 (表)単位量をこえる大きさを仮分数や帯分数で表すことができる。	○単位量をこえる分数の表し方を考える。 ◇定着・適用・発展問題を解く。

4 ・ 5 (3 組 本 時 2 / 2)	○単位のつかない分数について、数直線をもとに比べることを通して仮分数と帯分数の構成や相互の関係について理解する。	・数直線や分数の構成をもとに仮分数・帯分数の相互の関係について考える。 ・整数と同じ大きさの仮分数について調べる。 ・仮分数と帯分数の大きさの比べ方を考える。	(表)仮分数と帯分数を変換することができる。 (知)仮分数又は帯分数へのそろえ方を理解している。	○数直線上に分数を書き、仮分数と帯分数の関係を理解する。 ○仮分数と帯分数の大小の比べ方を考える。 ◇定着問題を解く。
6 ・ 7	○数直線をもとに分母が10の分数の大きさを考えることで分数と小数の関係を理解する。 ○「1/10の位」について知る。	・1/10を単位とした数直線をもとに分数の大きさや、分数と小数の関係について考える。 ・小数第一位を「1/10の位」ということを知る。 ・整数、小数、分数を弁別する。	(知)数直線上に表された1/10を単位とした分数について、その大きさや小数との対応関係を理解している。	○数直線上に分数と小数を対応させながら書く。 ◇定着・適用問題を解く。
【発展】「もの知りコーナー」を読んで分数にも加法、減法があることを知り、分数への関心を広げる。				
③まとめ (3時間)				
1	○外的な活動を通して学習内容の理解を深め、分数についての興味を広げる。	・ [やってみよう] 分数ものさしを作って、いろいろなものの長さを測ったり、折り紙を使って分数の大きさを表したりする活動に取り組む。	(関)学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。	○分数ものさしや折り紙を使って分数の大きさを調べる。 ◇定着・適用・発展問題を解く。
2 ・ 3	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめよう」に取り組む。	(知)分数の意味や、仮分数、帯分数について理解している。	◇定着・適用・発展問題を解く。
【発展】巻末p. 99の「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組み、単元の学習内容をもとに単位分数についての理解を深める。				○これまでの学習をもとに、異分母の分数の大きさを比べる。

5 本時の指導《1組、公開授業2、1/13時間目》

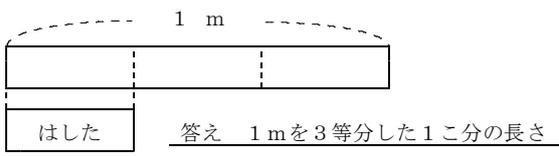
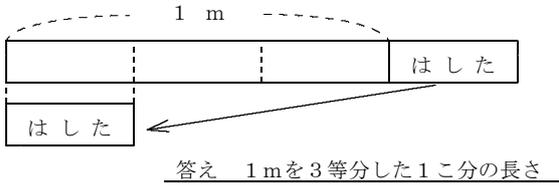
(1) 目 標 ○端数部分の大きさを、基準量を何等分かした大きさではかることで分数の意味を知り、分数を用いた表し方を理解する。

(2) 本時指導の考え方

仮説1に係り、本時の算数的活動は、紙テープを使って実際に分割操作をすることである。その活動を通して、「はした（端数部分）」を意識させること、はしたの長さを使って基準量（1 m）を等分割することを意識させることが必要であると考えられる。この作業的活動を通して、体感的に分数の意味を理解できるようにしていきたい。

(3) 展 開

	学習内容（番号）と学習活動（◎） 予想される児童の反応（○）	指導上の留意点（・） 具体的評価規準（◇）	備 考
つ か む	<p>1 プロローグ</p> <p>◎写真を見ながら等しい大きさに分けることについて話し合う。</p> <p>○4つに分けている。</p> <p>○半分の半分になっている。</p> <p>○4つとも同じ大きさに分けている。</p> <p>◎紙テープを実際に4等分する。</p> <p>○テープを半分にして、それをまた半分にすると4等分できる。</p> <p>◎4等分したテープをもとに話し合う。</p> <p>○分けた1本1本は同じ長さになる。</p> <p>○4本をつなげるともとの長さになる。</p>	<p>・どのような分け方をしているか、同じ大きさに分けるとはどういうことかをおさえるようにする。</p> <p>・「等分する」ことの意味を確認する。</p> <p>・紙テープを配布し、実際に作業をさせることにより、全体量を4等分していることを実感できるようにする。</p> <p>・基準量をもとに、4本のテープをつなぐともとの長さになることを確認できるようにする。</p>	<p>写真・模型</p> <p>紙テープ（児童用）</p>
15	<p>2 問題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>テープで、木のまわりの長さをはかったら、1 mとあとすこしはしたがありました。はしたの長さは何mですか。</p> </div> <p>○1 mを10等分して小数で表す。</p> <p>○実際の長さを測って小数で表す。</p>	<p>・紙テープを提示し、それをもとに題意を確認できるようにする。</p> <p>・1 mを10等分したり、実測したりして、はしたを小数で表せないことを確認し、課題につなげる。</p>	<p>テープ図（掲示用）</p>
考 え る	<p>3 課題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>小数では表せないはしたの表し方を考えよう。</p> </div>		
	<p>4 見直し</p> <p>◎はしたの長さは1 mのどれだけの長さであるかを考える。</p> <p>○半分より少し足りない。</p> <p>○3等分した1こ分くらい。</p>	<p>・「半分より少し足りない」では、正確な数量ではないことを確認し、導入と関連付けながら「等分」した長さにできないかを意識できるようにする。</p>	
	<p>5 自力解決</p> <p>◎はしたの長さが1 mのどれくらいになるのかを確かめる。</p> <p>○はしたの長さを使って1 mを3等分する。</p>	<p>・実際にテープを使って作業しながら、はしたの長さが1 mを3等分した1こ分であるかを確かめられ</p>	<p>紙テープ（児童用）</p>

<p>(仮説 1 課題解決の場)</p>	 <p>○全体の長さを4等分して求める。</p> 	<p>るようにする。</p>	
<p>6 比較検討 ◎ 1 mを3等分した1こ分の長さをどう表したらよいかを話し合う。 ○ 1 mを3等分した1こ分m</p> <p>7 中間まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1 mを3等分した1こ分の長さを、1 mの3分の一という。</p> <p>1 mの3分の一の長さを<math>\frac{1}{3}</math> mと書き、「3分の一メートル」と読む。</p> </div> <p>8 確かめの問題 ◎ 7等分した1こ分の長さの表し方を考える。</p>	<p>23</p>	<p>・「小数」の学習内容を想起させながら話し合いを進め、「基準量(1 m)」「3等分」「1こ分」を意識させていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇ 具体の評価規準</p> <p>A：分数の意味を知り、分数を用いた表し方やそのよさを理解している。</p> <p>B：1 mを3等分した1こ分の長さを1 mの「三分の一」といい、「<math>1/3</math> m」と書くことを理解している。</p> <p>Cと判断される児童への指導 テープを使って、基準量(1 m)を何等分した1こ分であるかを確認しながら意味理解ができるようにしていく。</p> </div> <p>・紙テープを使って同じようにはしたの長さ確かめる。</p>	<p>テープ図 (掲示用)</p>
<p>まとめる</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>はしたの長さは、1 mを何等分かした長さの1こ分で表すことができる。</p> </div>	<p>・まとめは□うめ形式にして児童に言葉を入れさせてまとめる。</p>	
<p>広げる</p> <p>5</p>	<p>10 定着問題 ◎練習問題を解く。</p> <p>11 振り返りと次時の予告 ◎本時の学習を振り返る。 ◎次時の学習内容を知る。</p>	<p>・解決の見通しがもてない児童には、個別指導をする。</p> <p>・児童からの感想をもとに本時の学習のがんばりを認め、次時の学習への意欲付けを図る。</p>	

5 本時の指導《2組、公開授業2、6 / 13時間目》

(1) 目標 ○「帯分数」の意味を理解し、単位量をこえる大きさを仮分数や帯分数で表すことができる。

(2) 本時指導の考え方

仮説2に係り、習熟の場合には、「定着問題」「適用問題」「発展問題」を解決していく。自力での解決の難しい児童にはヒントカードを用意し、必要に応じて助言していく。自力で解いていく児童のための手立てとして、プリントの工夫をして、答え合わせまでできるようにする。

(3) 展開

	学習内容(番号)と学習活動(◎) 予想される児童の反応(○)	指導上の留意点(・) 具体の評価規準(◇)	備考
つかむ	<p>1 課題把握</p> <p>1より大きい分数の表し方を考えよう。</p> <p>2 問題把握</p> <p><math>\frac{8}{5}m</math>、<math>\frac{9}{5}m</math>は、それぞれ1mとあとどれだけの長さですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時内容、仮分数と真分数について想起させる。</li> <li>仮分数では、大きさがわかりにくいことから、大きさがよりわかる分数の表し方に着目させる。</li> <li><math>\frac{8}{5}m</math>は1より大きいことを確認する。</li> </ul>	
考える	<p>3 見通し</p> <p>◎数直線をもとにして考える。</p> <p>○1を5等分しているので1目盛りが<math>\frac{1}{5}</math>である。</p> <p>4 自力解決</p> <p>◎<math>\frac{8}{5}m</math>は1mとどれだけかを考える。</p> <p>○<math>\frac{8}{5}m</math>は1とm3目盛りだから1mと<math>\frac{3}{5}m</math>です。</p> <p>○<math>\frac{8}{5}m</math>は1mと<math>\frac{1}{5}m</math>の3こ分だから1mと<math>\frac{3}{5}m</math>です。</p> <p>5 比較検討</p> <p>◎考えを発表する。</p> <p>○1mと<math>\frac{3}{5}m</math>だと1mより大きいことが一目でわかる。</p> <p>6 中間まとめ</p> <p>◎1mと<math>\frac{3}{5}m</math>を<math>1\frac{3}{5}m</math>と表すことを知る。</p> <p><math>\frac{8}{5}m \rightarrow 1m + \frac{3}{5}m \rightarrow 1\frac{3}{5}m</math></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時をもとに数直線を用いることを想起させる。</li> <li>数直線を手がかりに、1目盛りが<math>\frac{1}{5}</math>であることから考えさせる。</li> <li>自力で解決できないでいる児童にはヒントカードを与え、数直線図で考えられるようにする。</li> <li><math>1\frac{3}{5}m</math>の書き方と読み方を教える。</li> <li><math>1\frac{3}{5}m</math>は、1より大きいことにふれる。</li> <li>整数と真分数が合わさってできていることに気づく児童がいたら、とりあげて確かめ問題につなげる。</li> </ul>	<p>板書用数直線テープ図</p> <p>数直線図プリント</p> <p>ヒントカード</p>

15	<p>7 確かめ問題</p> <p>◎ <math>\frac{9}{4}</math> を数直線を用いて帯分数で表す。</p> <p>○ <math>20</math> と <math>\frac{1}{4}</math> だと <math>2</math> より大きいことが一目でわかる。</p> <p>○ 整数と真分数からできている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かさの場合も <math>1\frac{3}{5}</math> m のように表すことができるのかどうか確かめさせる。</li> <li>・数直線を用いて考えさせる。</li> <li>・リットルます図を用いて確かめをする。</li> </ul>	数直線 板書用 リットル ます図
まとめ める 3	<p>8 まとめ</p> <p>◎ 帯分数の意味と用語を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">       帯分数とは、整数と真分数できている <math>1</math> より大きい分数。     </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に戻り、学習を振り返る。</li> <li>・まとめ確認の後、<math>\frac{5}{5}</math> について触れ、<math>1</math> より大きい数が帯分数であることを確認する。</li> </ul>	
広げる  (仮説2 習熟の場)  22	<p>9 定着問題</p> <p>◎ 練習問題を解く。</p> <p>10 適用問題</p> <p>◎ チャレンジ問題を解く。</p> <p>11 発展問題</p> <p>◎ スペシャル問題を解く。</p> <p>12 振り返りと次時の予告</p> <p>◎ 学習内容を振り返る。</p> <p>◎ 次時の内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で確認しながら、定着問題を解かせる。</li> <li>・適用問題と発展問題にはヒントカードを用意して、児童が必要に応じて活用できるようにする。</li> <li>・答え合わせも一人ひとりの進度にそってできるように答えのプリントを用意する。</li> <li>・必要に応じて助言していく。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇ 具体の評価規準</p> <p>A：整数との関わりを意識して、単位量をこえる大きさを仮分数や帯分数で表すことができる。</p> <p>B：単位量をこえる大きさを、仮分数や帯分数で表すことができる。</p> <p>C と判断される児童への指導</p> <p>数直線図をもとに、単位量を意識させ「仮分数」「帯分数」に表すことができるように個別指導する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の内容も合わせて、振り返る。</li> <li>・仮分数と帯分数の相互の関係に関心をもたせ、次時の学習へつなげる。</li> </ul>	定着問題 プリント  適用問題 プリント  発展問題 プリント  ヒントカ ード

5 本時の指導《3組、公開授業1、8/13時間目》

(1) 目標 ○単位のつかない分数について、数直線をもとに比べることを通して仮分数と帯分数の構成や相互の関係について理解する。

(2) 本時指導の考え方

仮説1に係り、本時の算数的活動は、仮分数と帯分数の大小を比較するための方法を考えることである。比較するためには、両方を仮分数又は帯分数に変換することが必要である。数直線を用いて視覚的にも分数の意味や構成の理解を深めていきたい。

(3) 展開

	学習内容（番号）と学習活動（◎） 予想される児童の反応（○）	指導上の留意点（・） 具体的評価規準（◇）	備考
つかむ  5	<p>1 問題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <math>\frac{7}{3}</math>と<math>2\frac{2}{3}</math>ではどちらが大きいでしょう。         </div> <p>2 課題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">           仮分数、帯分数の大きさの比べ方を考えよう。         </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮分数、帯分数であることをとらえさせる。</li> </ul>	紙板書
考える (仮説1 課題解決の場)	<p>3 見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎既習事項を想起し、大きさを比べる方法の見通しを持つ。</li> <li>○帯分数又は仮分数に直す。</li> <li>○数直線上に表して比べる。</li> </ul> <p>4 自力解決</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎自分ができる方法で解決をしていく。</li> <li>○仮分数を帯分数に直して比べる。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>\frac{7}{3} = 2\frac{1}{3}</math>だから<math>2\frac{2}{3}</math>より小さい。</li> </ul> </li> <li>○帯分数を仮分数に直して比べる。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>2\frac{2}{3} = \frac{8}{3}</math>だから<math>\frac{7}{3}</math>より大きい。</li> </ul> </li> <li>○数直線を用いて比較する。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p style="margin: 0;">0                      1                      2                      3</p> <p style="margin: 0; text-align: center;"> <math>\frac{7}{3}</math>      <math>2\frac{2}{3}</math> </p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎答えの確認</li> <li>○<math>\frac{7}{3}</math>と<math>2\frac{2}{3}</math>では<math>2\frac{2}{3}</math>の方が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時を想起させ、同じ分数に直してそろえるとよいことに着目させる。</li> <li>1つの方法が終わったら、2つ目の方法で答えを求めるようにする。</li> <li>変換することで大きさが比べやすくなることに気づかせる。</li> </ul>	数直線

27	<p>5 比較検討</p> <p>◎お互いの考えを発表しあいそれぞれのやり方を理解する。</p> <p>○仮分数を帯分数に直す方法</p> <p>・ <math>\frac{7}{3} \rightarrow 7 \div 3</math> は2あまり1だから <math>\frac{3}{3}</math> が2こと <math>\frac{1}{3}</math> が1こで <math>2\frac{1}{3}</math>。</p> <p><math>2\frac{1}{3}</math> と <math>2\frac{2}{3}</math> では <math>2\frac{2}{3}</math> のほうが大きい。</p> <p>○帯分数を仮分数に直す方法</p> <p>・ <math>2\frac{2}{3}</math> の2は <math>\frac{6}{3}</math>。 <math>\frac{6}{3}</math> と <math>\frac{2}{3}</math> で <math>\frac{8}{3}</math>。</p> <p><math>\frac{7}{3}</math> と <math>\frac{8}{3}</math> では <math>\frac{8}{3}</math> のほうが大きい。</p> <p>◎それぞれのよさに気づく。</p> <p>○仮分数…単位分数をもとに、分子の大きさだけで大小を比べることができる。</p> <p>○帯分数…整数が入っているから比べやすい。</p> <p>6 中間まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">       分数の大きさ比べ→直す        帯→仮 <math>2\frac{2}{3} = \frac{8}{3}</math> (<math>3 \times 2 + 2 = 8</math>)        仮→帯 <math>\frac{7}{3} = 2\frac{1}{3}</math> (<math>7 \div 3 = 2</math>あまり1)     </div> <p>7 確かめ問題</p> <p>◎確かめ問題を解く。</p> <p>・ <math>\frac{27}{4}</math> と <math>6\frac{2}{4}</math> の大きさを比べる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">       ◇ 具体の評価規準        A：仮分数・帯分数のよさに応じた変換の仕方を理解している。        B：仮分数又は帯分数へのそろえ方を理解している。        Cと判断される児童への指導        数直線上に仮分数と帯分数を表し、それをもとに比べ方や変換の方法を理解させる。     </div> <p>・簡潔にまとめた形で示す。</p> <p>・仮分数、帯分数どちらに直しても正しく比べられることを確認する。</p>	
まとめ 3	<p>8 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">       分数の大きさを比べるときは、帯分数または仮分数に直して比べる。     </div>		
広げ る  10	<p>9 定着問題</p> <p>◎練習問題を解く。</p> <p>10 振り返りと次時の予告</p> <p>◎本時の学習内容を振り返る。</p> <p>◎次時の内容を知る。</p>	<p>・答え合わせは各自で行う。</p> <p>・理解が不十分な児童には個別指導を行う。</p> <p>・学習を振り返り、次時の学習の見通しを持つ。</p>	プリント ヒント カード